

2014年3月18日

株式会社サトー

オブジェクト（白黒反転、罫線等）印字有無の制御機能 操作マニュアル

概要：白黒反転や罫線など、ラベルデザインを構成する各オブジェクトの印字有無を制御する事が出来る機能です。

例えばラベルデザイン上の一部が白黒反転する・しないの双方のケースが存在する場合、従来の Multi LABELIST 製品では双方のレイアウトファイルを作成して使い分ける必要がありましたが、本機能を利用する事で1つのレイアウトファイルで白黒反転する・しないといった制御が可能となります。是非本機能をご利用下さい。

従来

白黒反転無し用フォーマット



白黒反転有り用フォーマット



2 フォーマット必

本機能の使用時

1 フォーマットで

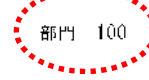


**白黒反転、罫線等の
印字有無を条件によ
り切替可能です**

反転有



反転無



この資料の記載内容は Multi LABELIT V4 (Ver.4.4) の仕様に基づいています。

この資料は、機能追加したオブジェクト (白黒反転、罫線等) 印字有無の制御機能部分にポイントを絞って記載しています。Multi LABELIST V4 全般の操作・使用方法に関しては、ヘルプ及び練習マニュアルをご覧ください。

この資料では、既存のレイアウトファイルを使い、下記条件に合致した場合に部門コード (変数文字) を白黒反転させるパターンを例にとりあげ、説明致します。

< 条件 >

部門コード が 1 ~ 99 白黒反転する (それ以外は白黒反転しない)

「変数」に登録

「入力チェックテーブル」に印字有りの条件値を設定

白黒反転オブジェクトに印字有無の条件 (、) を設定

既に Multi LABELIST V4 をご使用頂いているお客様は弊社ホームページより最新版のプログラムをダウンロードしてセットアップすることでご使用頂けます。以下アドレスよりダウンロードしてください。

<http://www.sato.co.jp/download/software/content/view/47/5/>

新規でご購入を検討中のお客様、また「Multi LABELIST」「Multi LABELIST PRO」「Multi LABELIST me」からバージョンアップをご検討中のお客様は弊社営業所までご連絡下さい。

http://www.sato.co.jp/company/location_jp.html

練習マニュアルダウンロードアドレス

<http://www.sato.co.jp/download/software/content/view/47/5/>

【操作の流れ】

1. 設定に必要な情報を、登録作成します・・・P3
 印字有無を判定する条件として必要な「変数」と「入力チェックテーブル」を設定します。
2. 印字有無を切り替えるオブジェクトに、条件設定を行います・・・P5
 白黒反転や罫線といった、条件により印字有無を切り替えるオブジェクトに、「1」で設定した条件を組み合わせて、条件設定を行います。
3. 条件どおりの印字になっているか確認します・・・P10
 レイアウト発行、振分発行等で発行して確認を行います。

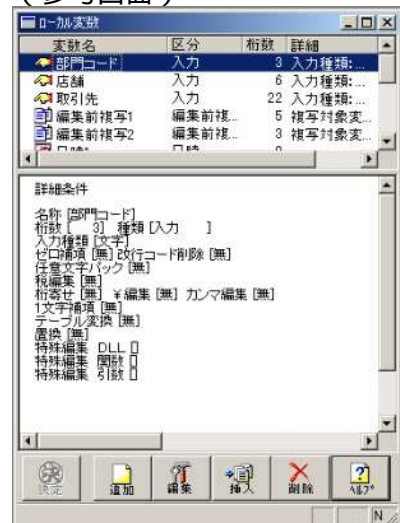
【オブジェクト印字有無制御機能の条件設定に必要な事前設定】

印字する・しないの切替え設定を行うためには、「レイアウト管理」画面で、条件となる「変数」および「入力チェックテーブル」の作成が必要になります。本資料では以下の「変数」と「入力チェックテーブル」を条件に使用します。

< 変数 >

- 変数種類・・・入力
- 入力変数データ種類・・・文字
- 変数名・・・部門コード
- 桁数・・・3桁
- 編集パラメータ・・・なし

(参考画面)



<入力チェックテーブル>

入力許可項目種 数値

入力許可値・範囲 (No 1) 1 ~ 99

入力チェックテーブル名 . . 部門範囲

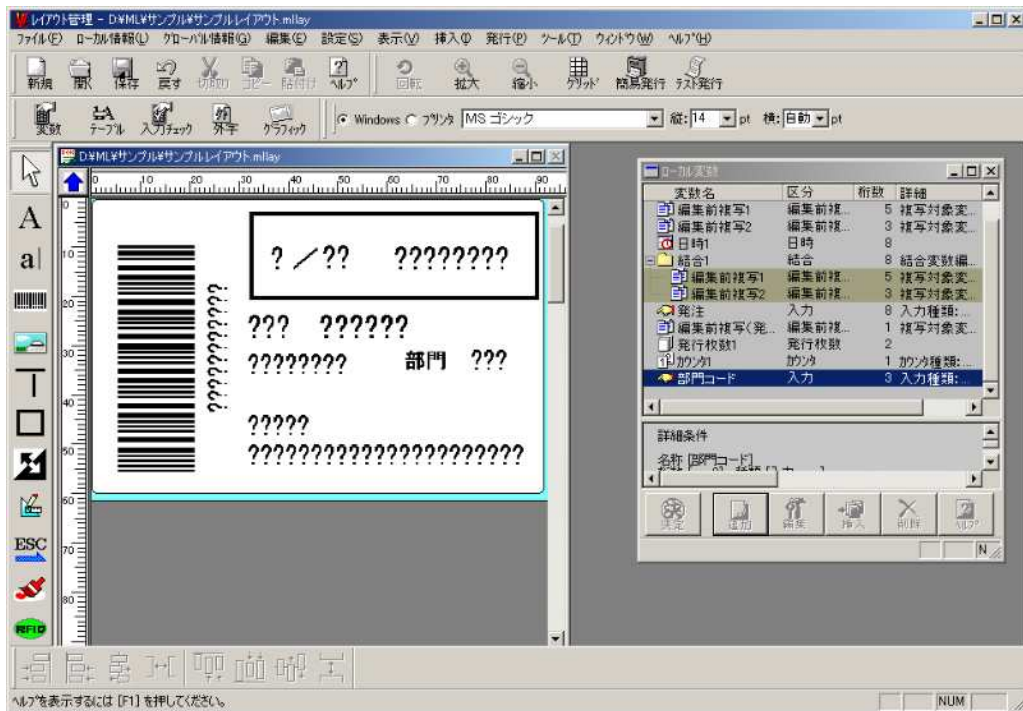
(参考画面)



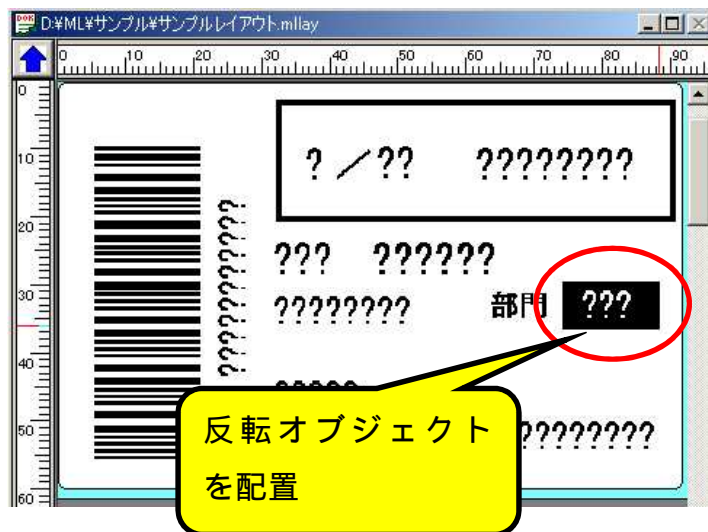
「変数」や「入力チェックテーブル」の設定方法については、各画面のヘルプ、または本資料の巻末の【補足】をご参照ください。
 既存のレイアウトに本機能を設定する場合は、既に設定されている「変数」や「入力チェックテーブル」を条件にご利用頂いて構いません。

【オブジェクト印字有無の条件設定】

1. 「レイアウト管理」画面で、オブジェクト印字有無の条件設定を行うレイアウトを開きます。



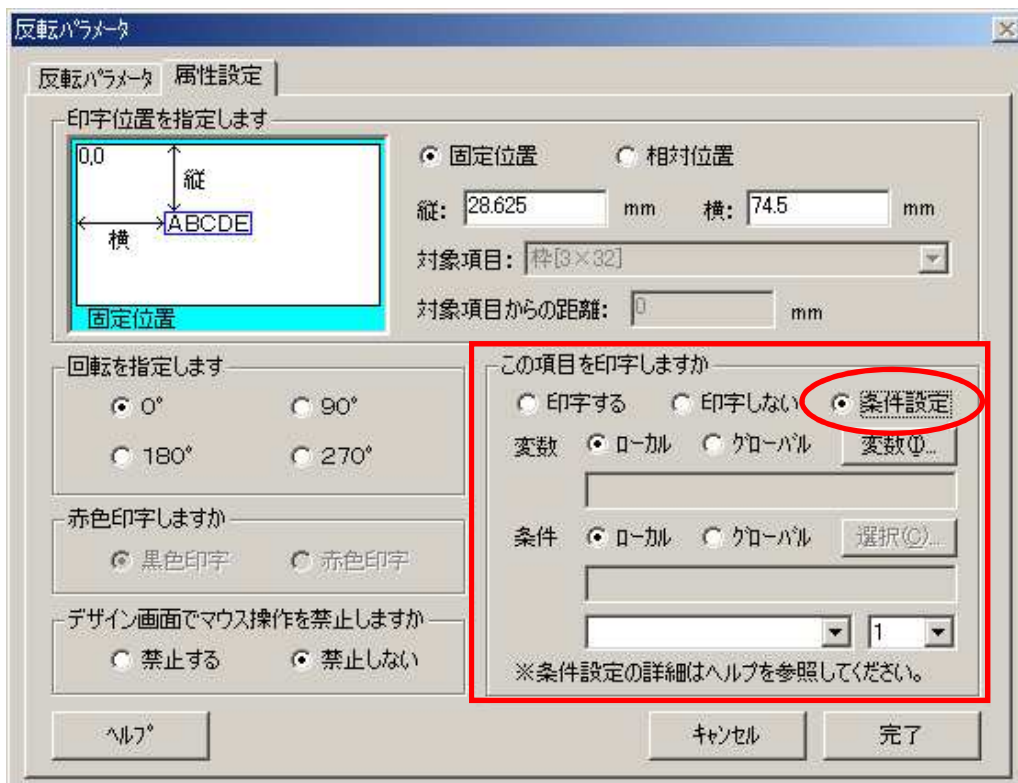
2. 印字有無の条件を設定するオブジェクトをレイアウトに配置します。
(本資料では、「反転オブジェクト」を部門コード上に配置します)



3. 「2」の反転オブジェクトをダブルクリックし、反転パラメータ画面を表示し、「属性設定」タブをクリックします。

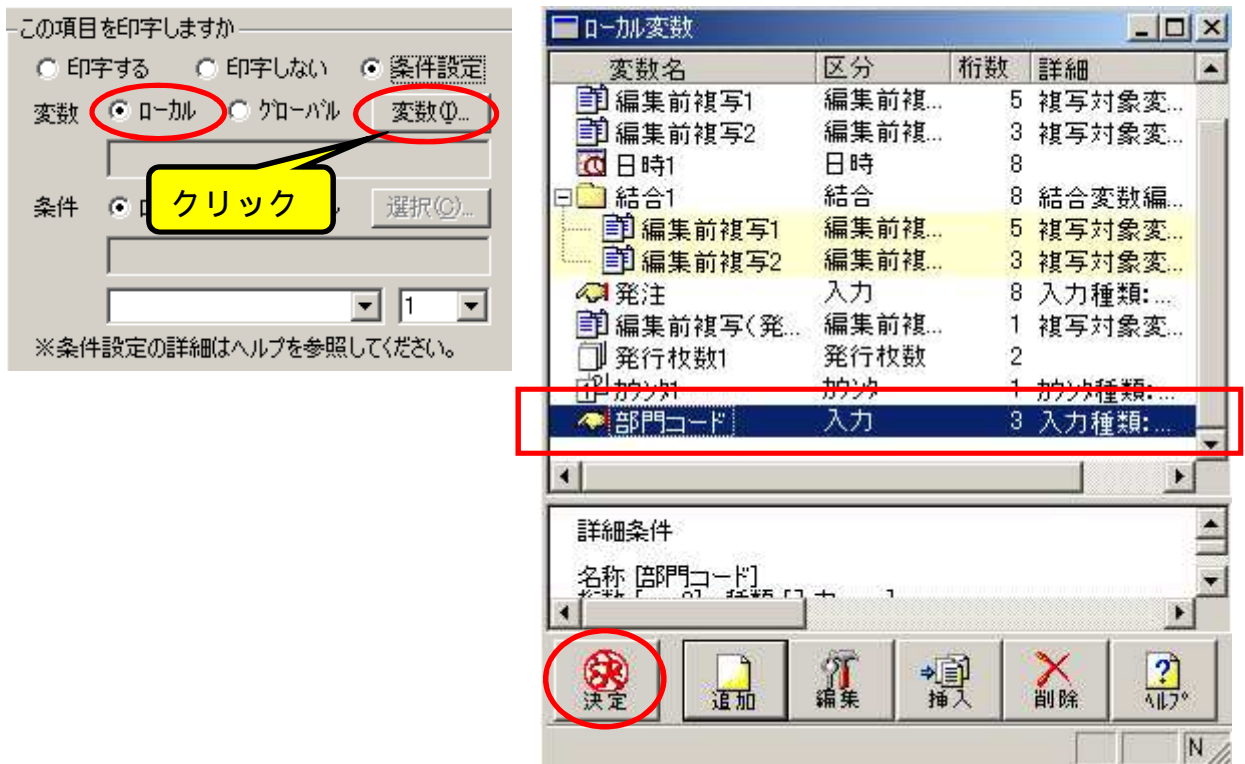


4. 属性設定画面の「この項目を印字しますか」で「条件設定」を選択します。
「条件設定」を選択すると、「変数」「条件」項目が入力可能になります。



5. 「この項目を印字しますか」の「変数」を指定します。

「ローカル」を選択し、「変数」ボタンをクリックすると「ローカル変数」画面が表示されますので、【オブジェクト印字有無制御機能の条件設定に必要な事前設定】で設定した変数(本資料では部門コード)を選択し、「決定」ボタンをクリックします。

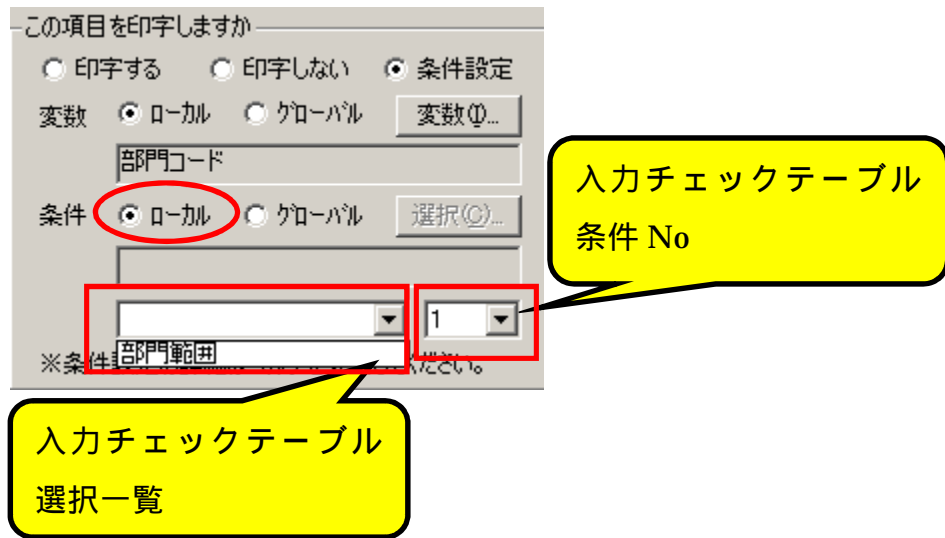


「ローカル」「グローバル」の選択は、事前に作成した「変数」の種類に合わせて行ってください。

「グローバル」選択時は、「変数」ボタンをクリックすると、「グローバル変数」画面が表示されますので、該当の変数を選択してください。

6. 「この項目を印字しますか」の「条件」を指定します。

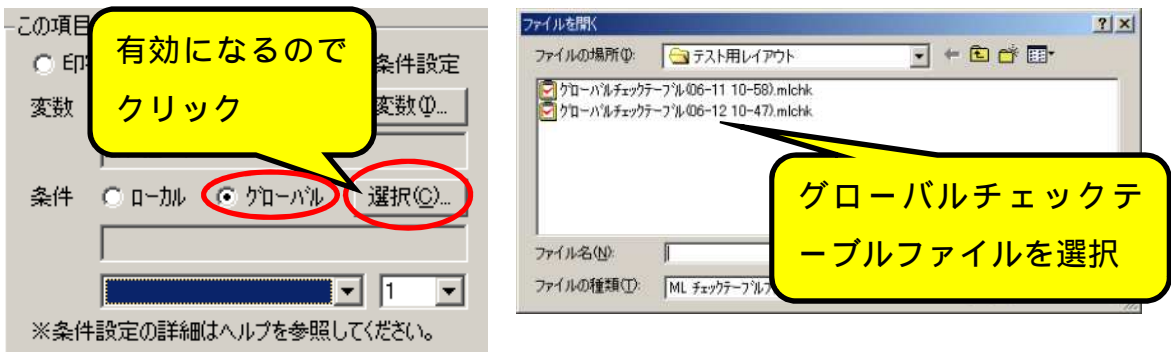
「ローカル」を選択し、選択一覧から【オブジェクト印字有無制御機能の条件設定に必要な事前設定】で設定した入力チェックテーブル（本資料では部門範囲）を選択し、使用する入力チェックテーブル条件 No(1～5)を選択します。



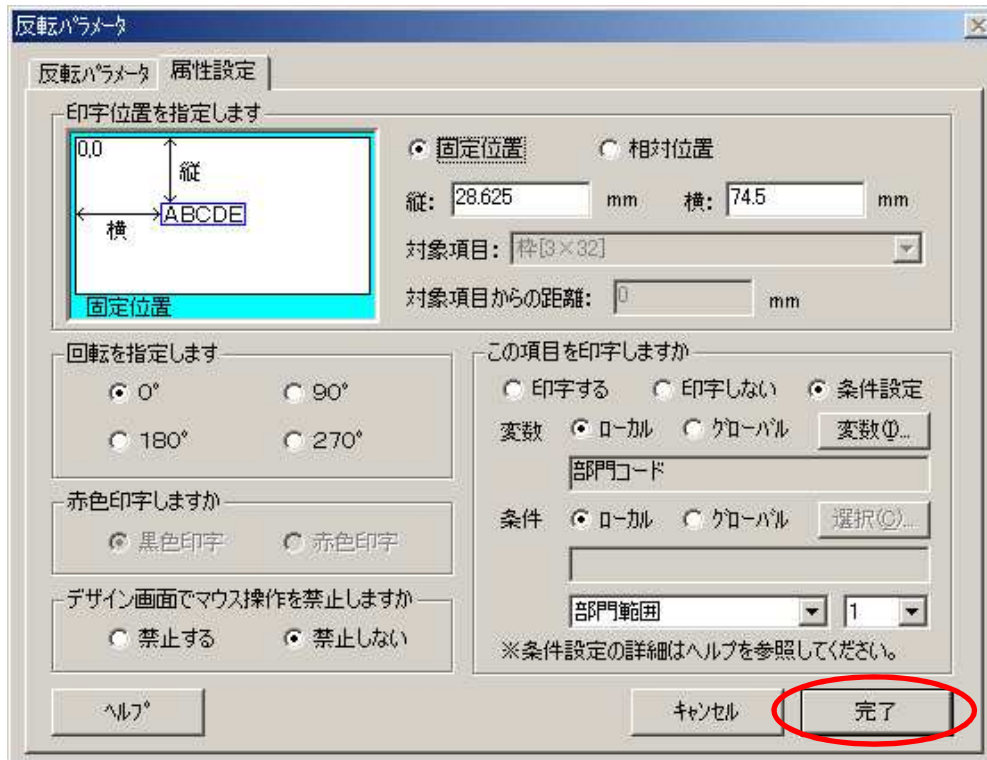
「ローカル」「グローバル」の選択は、事前に作成した「入力チェックテーブル」に合わせて行ってください。

「グローバル」選択時は、「選択」ボタンが有効になります。「選択」ボタンをクリックし「グローバルチェックテーブル選択画面」で該当するチェックテーブルファイルを選択すると、「入力チェックテーブル選択一覧」にテーブル一覧が表示されます。

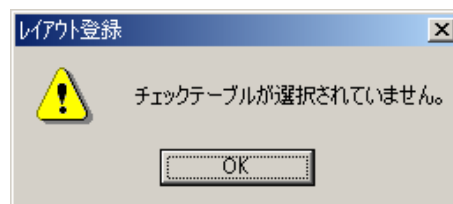
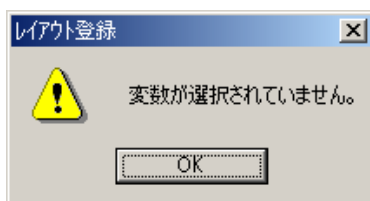
< グローバル選択時の画面 >



7. 「変数」および「条件」を選択したら、「完了」ボタンをクリックします。



「変数」もしくは「条件」が設定されていない状態で「完了」ボタンをクリックすると、以下のようにエラーメッセージが表示されます。設定した上で、再度「完了」ボタンをクリックしてください。



以上で設定作業は完了です。

次の項目で、発行やプレビュー画面を使い確認してみましょう。

【印字確認】

設定した条件どおりに印字されるか、実際に発行して確認を行って下さい。

本機能をご使用頂けない箇所が一部ございます。

詳細につきましては、後述の「注意事項」を参照してください。

部門コードに「88」を入力して印字した結果

<条件設定>
部門コード・・・1～99
白黒反転する

条件設定どおりに、白黒反転されています。

部門コードに「100」を入力して印字した結果

条件設定どおりに、白黒反転されていません。

注意事項

1. 以下の機能では「オブジェクト印字有無機能」の条件設定が適用されません。条件設定を行ったオブジェクトであっても常に印字するオブジェクトとして動作しますのでご注意ください。

レイアウト管理画面 - 「テスト発行」機能

レイアウト管理画面 - 「SAP R/3 ITF エクスポート」機能

2. 「オブジェクト印字有無機能」の条件設定を行ったオブジェクトは、フォームオーバーレイ登録の対象外となりますのでご注意ください。
3. 「オブジェクト印字有無機能」を設定したレイアウトファイルを動作させる場合、Multi LABELIST V4 は機能対応している Ver4.4 以降を必ずご使用下さい。それ以前のバージョンで動作させた場合は常に印字するオブジェクトとして動作しますのでご注意ください。

4. 印字有無の判断は変数編集後の値で行います。

従いまして条件設定の変数には編集後の結果が分かり難い変数の使用は極力さけ、入力文字変数（各種編集は一切設定しない）にて設計いただくことをお勧めいたします。

例) 条件設定に使用する変数が、テーブル変換編集をした「入力文字変数」だった場合、編集により以下のように変換されるので、入力チェックテーブルには変換後の値を設定しなければなりません。

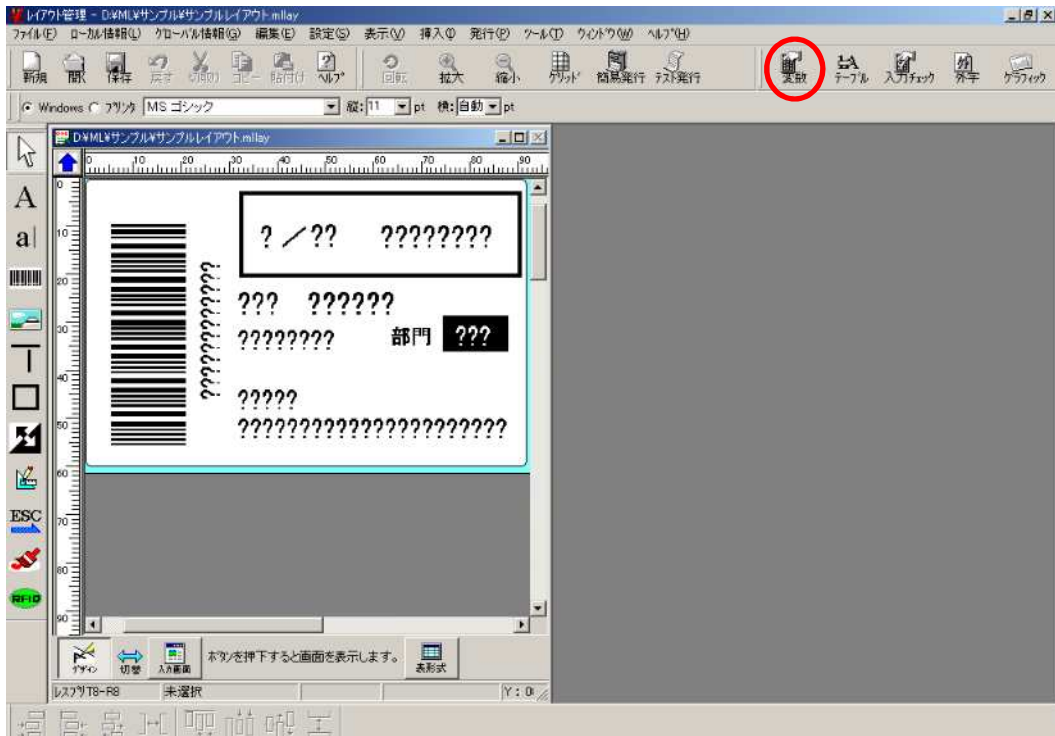
入力値	変換後の値
0 0 1	恵比寿
0 0 2	品川
0 0 3	新宿

入力チェックテーブルには
これらの値を設定

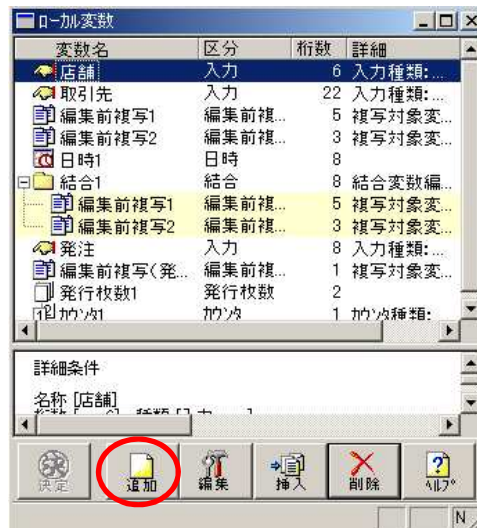
- 補足 -

1. 「ローカル変数」の設定方法

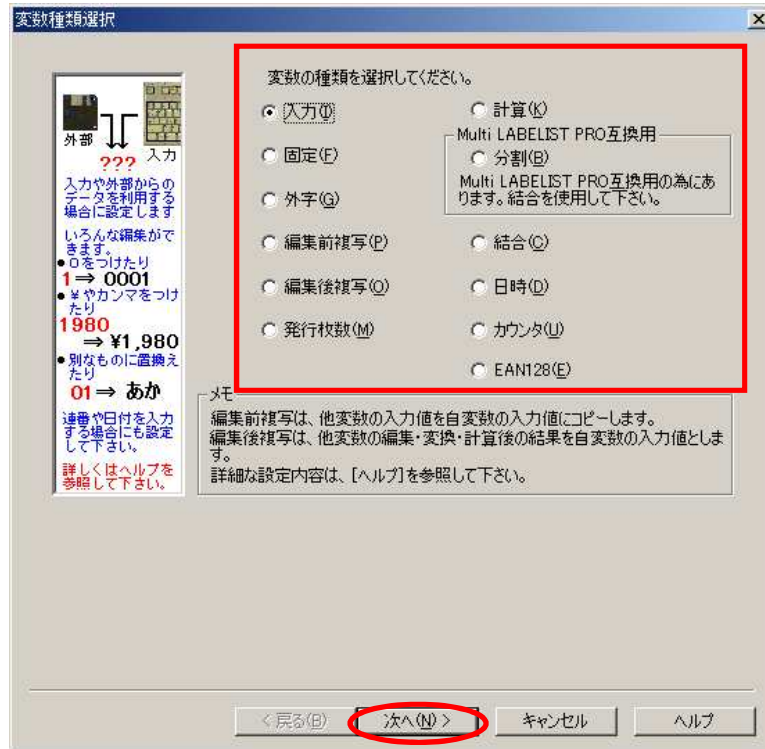
- 1) メニューより「レイアウト管理」画面を開き、「変数」ボタンをクリックします。



- 2) 「ローカル変数」画面が表示されますので、「追加」ボタンをクリックします。



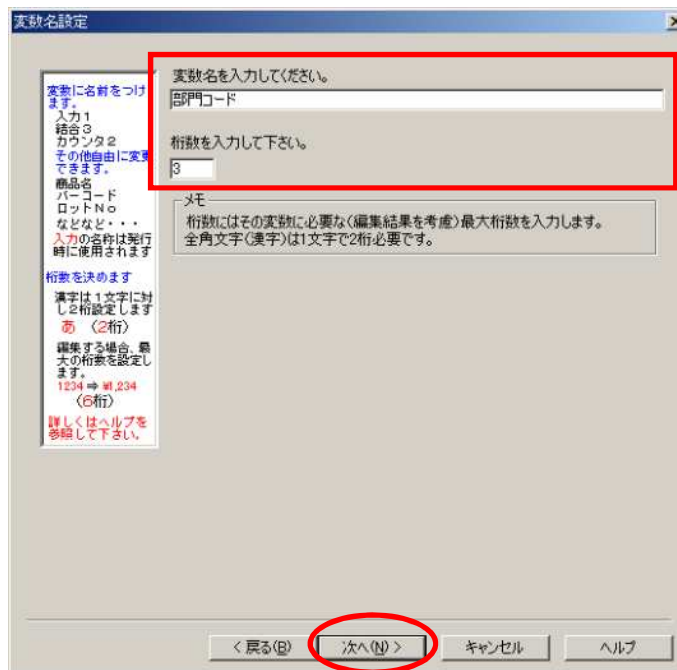
3) 「変数種類選択」画面が表示されますので、「入力」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



- 4) 入力変数データ種類画面が表示されますので、「文字(1~1024)」を選択して「次へ」ボタンをクリックします。

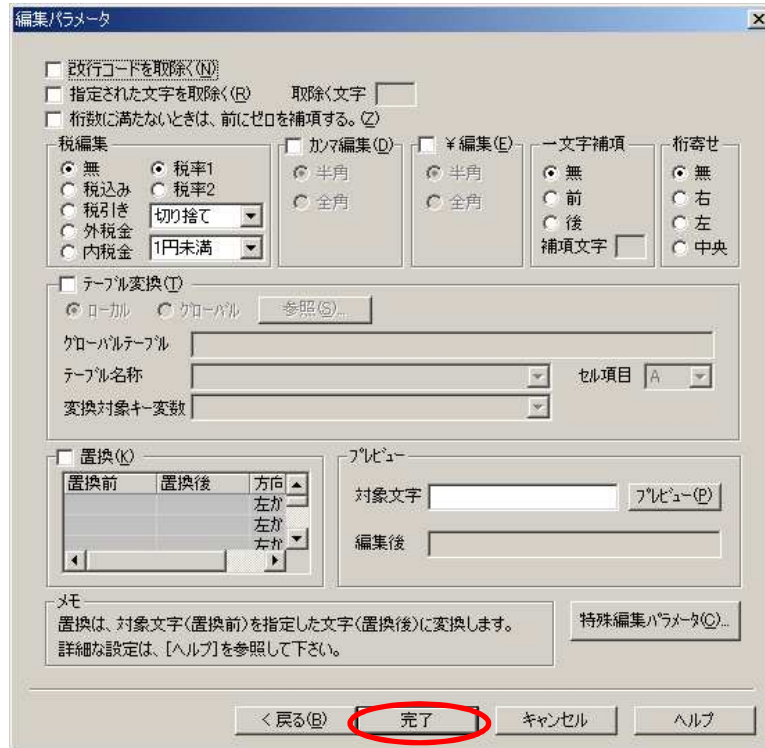


- 5) 変数名設定画面が表示されますので、「変数名」と「桁数」を入力し、「次へ」ボタンをクリックします。

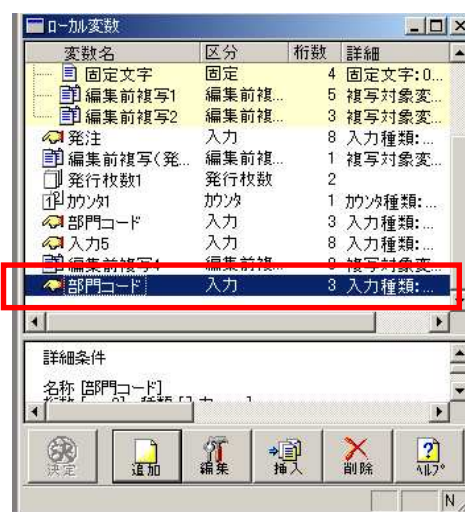


6) 編集パラメータ画面が表示されますので、編集があれば設定し「完了」ボタンをクリックします。

編集設定されていない変数を条件設定に使用することをお勧めします。



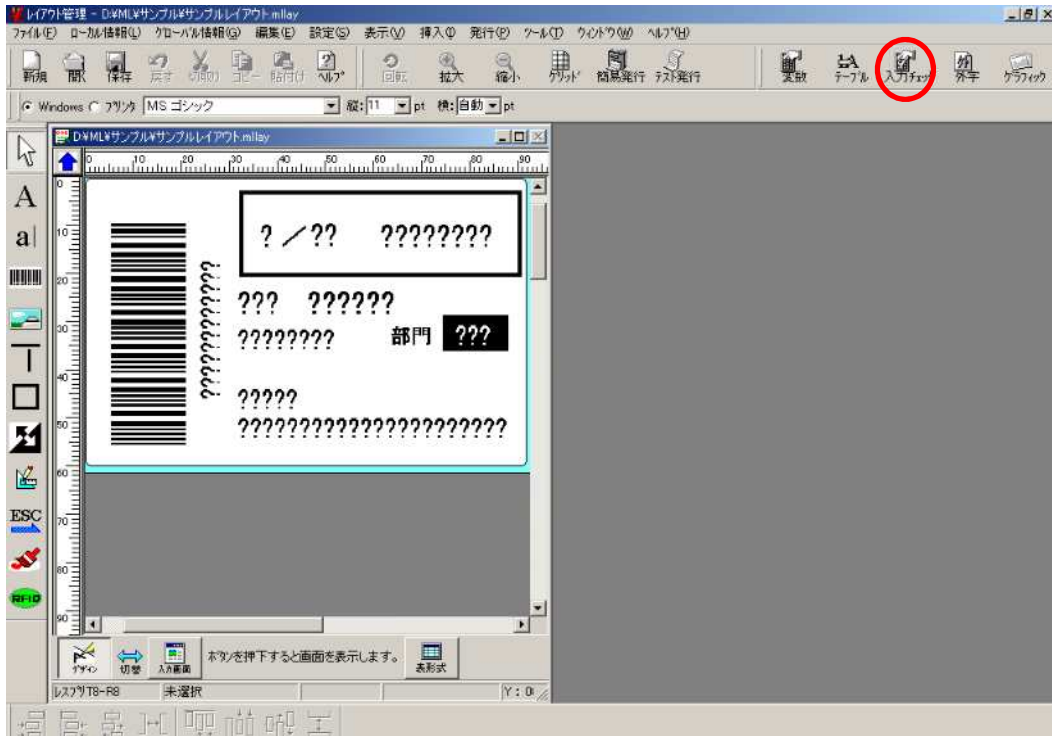
7) 「ローカル変数」画面に、設定した変数が追加されます。



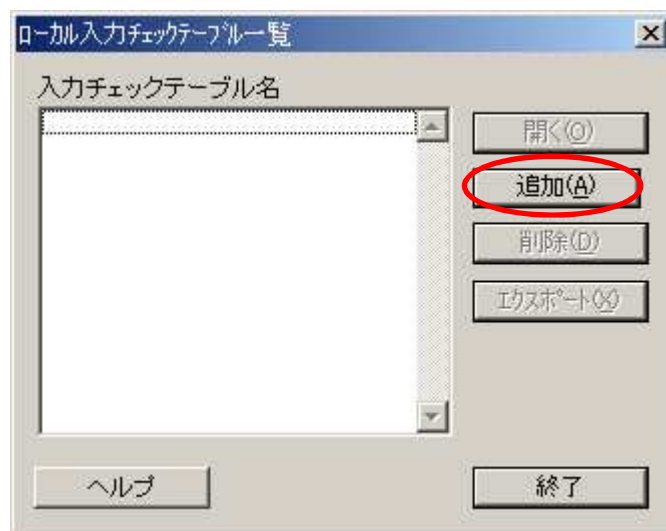
以上で、「変数の設定方法」は終了です。

2. 「ローカル入力チェックテーブル」の設定方法

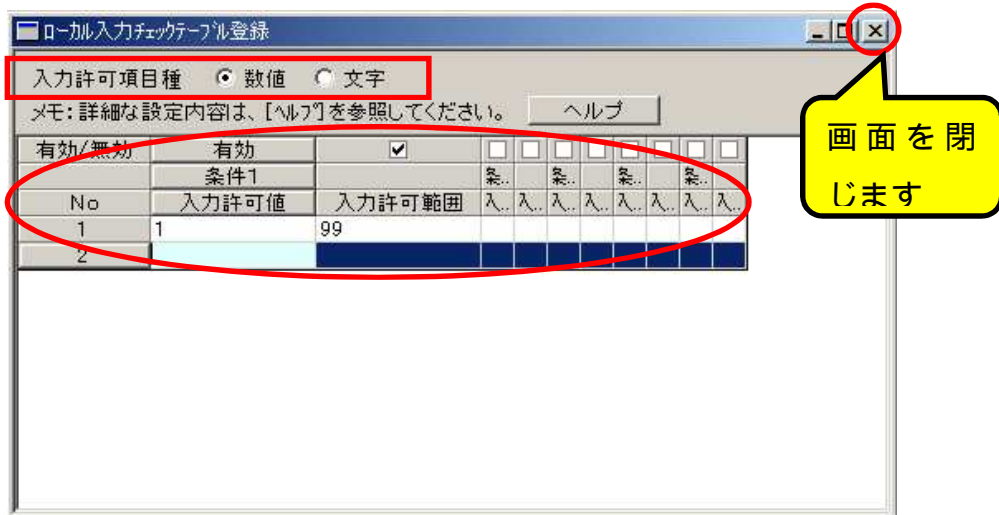
- 1) メニューより「レイアウト管理」画面を開き、「入力チェック」ボタンをクリックします。



- 2) 「ローカル入力チェックテーブル一覧」画面が表示されますので、「追加」ボタンをクリックします。



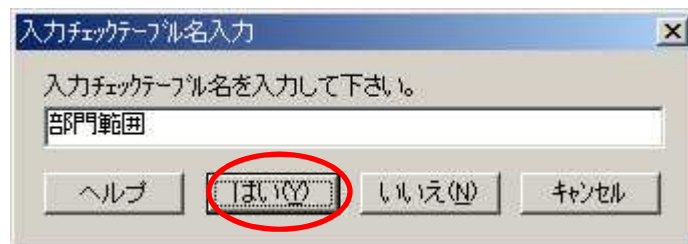
- 3) 「ローカル入力チェックテーブル登録」画面が表示されますので、オブジェクト印字有無の判断に使用する「変数」の判定値を設定します。
 入力許可項目種を選択し、値を入力したら、画面を閉じます。



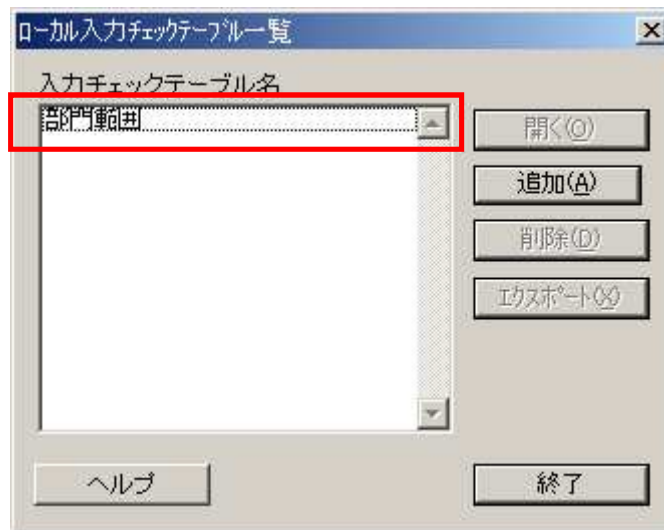
条件設定の「変数」に編集パラメータを設定している変数等を使用している場合は、**編集後**の値を入力許可値に設定してください。
 入力値ではないので注意が必要です。

本資料のように、入力許可値を範囲指定する場合は、「入力許可項目種」は「数値」を選択してください。

- 4) 「入力チェックテーブル名入力」画面が表示されますので、名前を入力して、「はい」ボタンをクリックします。



- 5)「ローカル入力チェックテーブル一覧」画面に、設定した入力チェックテーブルが追加されます。



以上で、「入力チェックテーブルの設定方法」は終了です。

以上